

2 (仮称) 富田地区複合施設等整備事業について

「(仮称) 富田地区複合施設等整備事業」は、令和4年5月に策定した「富田地区まちづくり基本構想」に基づき、富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センター及び富田老人福祉センターの3施設を多世代交流機能を持つ複合施設（以下、「複合施設」という）として整備する。

2-1 令和4年度までの取組

(1) 富田地区まちづくり基本構想について

富田地区では、老朽化が進行する公共施設の集積や、少子高齢化・人口構成の変化による市民ニーズの変化、すべての公共施設を現状のまま維持することが財政的に困難であるなどの課題に対応し、次世代に良質な資産を引き継ぐため、公共施設の再構築を軸とした「富田地区まちづくり基本構想」を令和4年5月に策定した。

(2) 公共施設の方向性

「富田地区まちづくり基本構想」では、地区内にある12の公共施設について、複合化、長寿命化、廃止等を含めた方向性を示した。複合施設に関する3施設を以下に示す。

[令和4年2月現在]

	1	2	3
施設名称	富田ふれあい文化センター	富田青少年交流センター	富田老人福祉センター
現状			
築年数	46年	44年	46年
耐震性	△	△	○
	診断未実施	診断未実施	耐震改修済
方向性			
機能面	原則としてサービス継続	原則としてサービス継続	原則としてサービス継続
施設面	複合化		
考え方	いずれの施設も築40年以上経過し老朽化が進んでいることや、当初の設置目的や施設の使われ方から利用者の世代間の交流が少ないため、3施設を統合し、多世代交流機能などを持つ複合施設として新たな公共施設を整備します。 複合化により、耐震性の懸念点の解消や、バリアフリーの更なる向上が可能です。		

(3) 事業予定地

複合施設の事業予定地は、公共施設用地を活用するものとして「現地建替え」とし、東西の地域資源と南北に通る幹線道路との交点に位置する、富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センターの敷地と、南側に隣接する富寿栄住宅建替えに伴う余剰地（16・17号棟敷地）及び隣接する富寿栄南公園を加えた敷地とする。

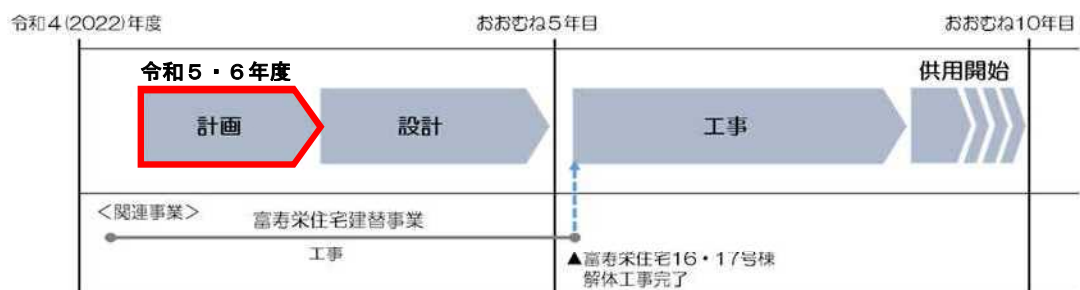


(4) 複合施設の考え方

複合施設については、個別の目的のためだけに訪れるのではなく、ふらりと立ち寄りたくなる場所・ほっとリラックスできる場所・自然と会話はずむ場所・みんなで使ってみたくなる場所といった“「まちのリビング」となる拠点施設”を目指す。



(5) 事業スケジュール



2-2 今後の取組

(1) 基本計画の策定について

令和5年度から令和6年度の2か年で基本計画の策定を予定しており、主な検討内容は以下の通り。

- ① 整備コンセプト
- ② 建物の配置や空間イメージ
- ③ 事業手法
- ④ 事業スケジュール

また、①②を検討するにあたり、意見交換会や市民ワークショップ等を実施し、住民の方のご意見をいただく。

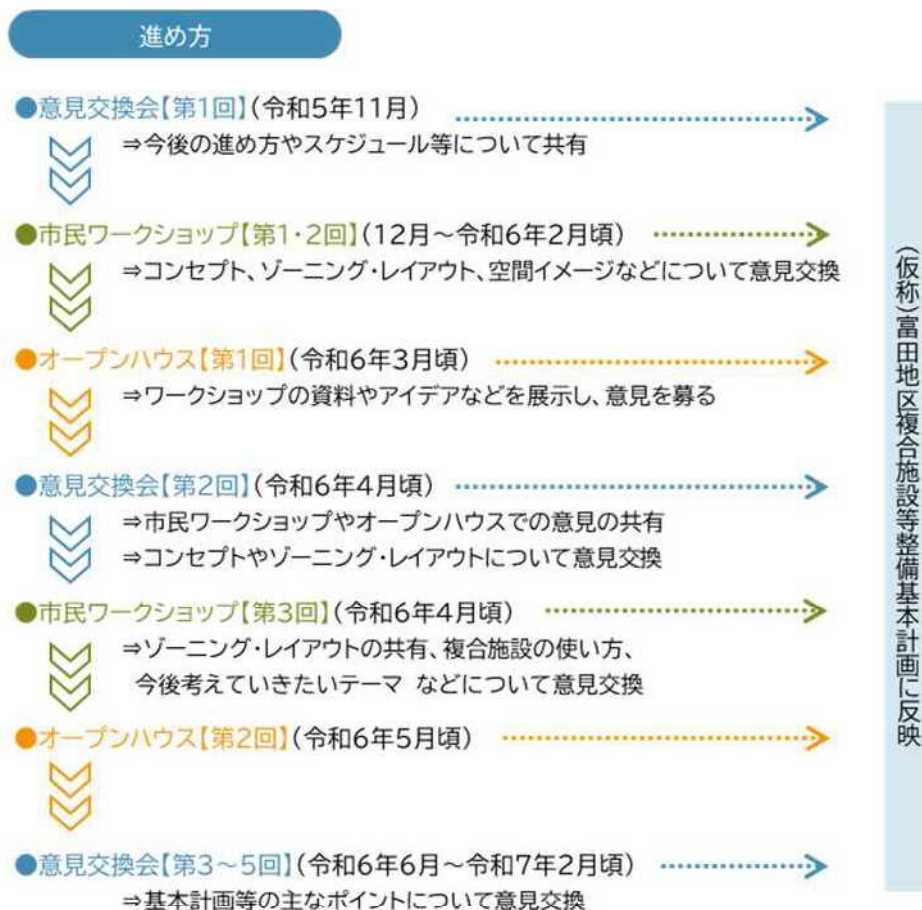
(2) 市民意見聴取について

1) 意見交換会

住民、地域の団体等の代表者で構成し、情報共有や意見交換を行う場として、2か年で5回程度開催予定。

2) 市民ワークショップ（みらいミーティング）

参加者については地域内で公募し、地域住民等の方々と計画プロセスを共有し、ともに考える場として、2か年で3回開催予定。



(3) 令和5年度の取組

1) 令和5年11月13日(月曜日)

第1回意見交換会 開催 出席者 16人



【主な内容】

- ・これまでの取組について
(富田地区まちづくり基本構想の概要説明)
- ・意見交換会発足について
- ・当面の進め方とスケジュールについて

2) 令和5年12月23日(土曜日)

第1回みらいミーティング(市民ワークショップ)開催 参加者 24人



主な内容

【第1回のテーマ】

複合施設でやってみたいこと、コンセプトを考える

【いただいた意見】

- ・水遊びや自転車の練習など、家ではできない遊びができる場所
- ・「第2の実家」のような場所
- ・どの年代でも利用しやすい場所
- ・子どもだけでも安心して一日中居られる場所
- ・集まるだけでなく、異年齢での交流が生まれるような場所
- ・地区外からの来訪者や地域の子どもに歴史文化を紹介・伝承できる場所
- ・酒蔵などの歴史ある富田の魅力を生かした施設
- ・いろいろな人に開かれた、使いやすい場所

など